

she said,

まちの困りごとに 楽しく取り組み、自分らしくいられる そんな「まちだ」にしたい



セミナーの受講者たちの熱い気持ちに、確かな手ごたえを感じているという喜田さん

THE まち人

MACHIBITO file 028
地域に生きる

よき「伴走者」であり、
よき「翻訳者」でありたい
町田市地域活動サポートオフィス



町田市地域活動サポートオフィス
TEL 042-785-4871
<https://machida-support.or.jp/>

日本でNPOの活動が活発になったのは1995年の阪神淡路大震災がきっかけだと言われている。3年後の1998年には特定非営利活動促進法、いわゆるNPO法が制定され、条件を満たした団体はNPO法人として法人格が取得できるようになった。それからおよそ20年、町田市を活動拠点とするNPO法人は約200。法人格を持たない市民団体も含め、それらの状況に目を向けてみると、事業資金が順調に増え、活発な活動ができていた団体も存在するが、人材難や資金不足など様々な課題を抱え、十分な成果が得られていない団体も散見されるのが現状だ。

町田市ではかねてからこうしたNPO法人や市民活動団体をサポートしてきたが、より専門性のあるスタッフで手厚く、そして継続した支援を行うために市が立ち上げたのが、町田市地域活動サポートオフィスだ。

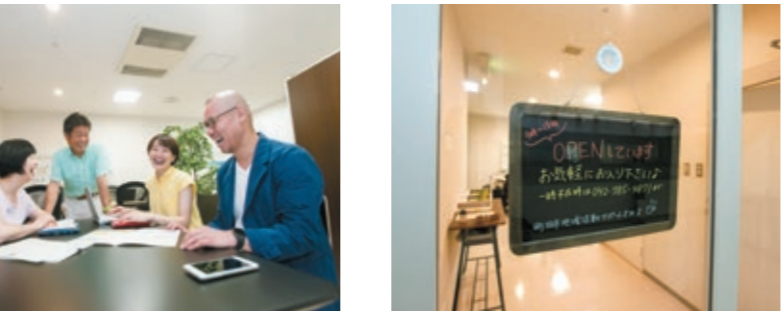
同オフィスがオープンしたのは2019年4月。これまで町田市では市民活動団体への支援について議論を繰り返しているが、

「市民活動をやりたい潜在層は実はたくさんいるんです。特に若い人は社会貢献や地域貢献に前向きだと感じています。でも、どういったらいいのかわからない、そういう人々には団体の立ち上

各団体や近隣自治体へのヒヤリング、有識者会議を重ねてきた。もちろん、以前から各種相談やコーディネート等を行ってきたが、専門性や継続性という部分でさらに高いレベルが必要だと感じていたのだ。

「市職員では、ひとつの団体にじっくりと向き合い続けることは難しい。そのため、団体が成熟するまでサポートすることができませんでした。もっと現場に出て行って、各団体に寄り添った、本当に必要とされている支援をしなくてはいけないと感じていました」そう語るのは、過去に市民協働推進課で地区協議会の設立にも携わっていた大谷さんだ。

同組織のスタッフは4名。設立してからまだ半年足らずだが、個別訪問やセミナーの開催、SNSでの発信などを積極的に行っている。



右ページは左から、大谷光雄さん、喜田亮子さん、山根香さん、長浜洋二さん。助成金や広報などをテーマに開催されるセミナーは常時20名程が参加し、熱いディスカッションが繰り返される。原町田4丁目の市民フォーラム4階にあるオフィスでは、無料相談を行っている